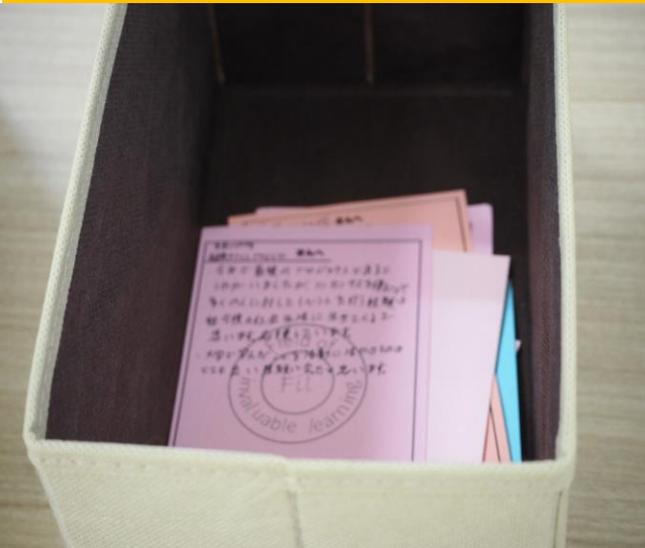




Field of  
Invaluable Learning  
FIL

Produced by LV College!



Field of  
invaluable  
learning  
2018  
Learning Value



## 発表団体インタビュー 4

1. 中部大学 コモンズサポーター
2. 長浜バイオ大学 長浜魅力づくりプロジェクト
3. 東京農業大学 大根プロジェクト
4. 文化学園大学 和装企画集団・紬
5. 東京都市大学 夢キャンコミュニケーター
6. 法政大学 GBC (Glass Box Office Hour Center)

## 教職員インタビュー 16

1. 中部大学 (コモンズサポーター) 梅原弥生氏
2. 長浜バイオ大学 (長浜魅力づくりプロジェクト) 松島三兒氏
3. 東京農業大学 (大根プロジェクト) 寺田守一氏
4. 文化学園大学 (和装企画集団・紬) 岡島奈音氏
5. 東京都市大学 (夢キャンコミュニケーター) 浦田充起氏
6. 名古屋学院大学国際文化学部 木村光伸氏

## 当日アンケート報告 22

## 開催を終えて 24

株式会社ラーニングバリュー代表取締役 安田仁秀

# CONTENTS



## 中部大学 コモンズサポーター

### 自分では思いつかないような考えを知ること とても価値のあること

——まずはFil2018を終えて率直な感想をどうぞ！

**中村** 応援したい団体に選ばれてとても嬉しいです！エントリーからFil当日のフィードバックまでの過程がとても有意義で、この過程が成長につながっていると感じました。

——こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**中村** 活動について話すことは、僕たちが課題に対してどのように取り組んできたかを振り返るいい機会だと思ったからです。また、他大学の方たちがどんな課題を持っていて、どのように乗り越えてきたのかを聞くことで、自分たちの成長に繋げることができたと確信しました。

### また利用してもらいたいという 気持ちをもって行動している 自分に気づいた

——Filの発表準備をする中で自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**大羽** 限られた発表時間の中で僕たちの1年間の活動すべてを伝えようとする、とても時間が足りませんでした。それだけのことをやってきたんだと改めて気づきました。

**畑田** サポーターになった当初は利用者目線になって説明するという考え方はなかったのですが、1年を経て、また利用してもらいたいという気持ちをもって自分が行動していることに気づきました。

### コモンズセンターは成長につ ながる場所

——Fil当日、みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？



**畑田** コモンズセンターは成長につながる場所であることを一番伝えたかったです！コモンズサポーターは、インターシップとして1年間を通して活動するので、社会人としてのマナーや人間力を身につけることができるからです。

——それは伝わったと思いますか？

**畑田** 伝わったと思います！（笑）頂いたメッセージカードに「素敵な活動をこれからも続けてください」と書いて頂きました。

——参加者からもらったその他のメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**畑田** 企画参加者が少ないことをマイナスに考える必要はない。今の活動を続けられれば理解してくれる人がついてきてくれるはず。と書いてありました。嬉しかったです。また頑張ろうと勇気をもらいました！

——Filに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

**畑田** 東京観光・・・ではなく（笑）、他大学の方と友達になれたことです！

大羽 他大学の方との交流は初めてだったので新鮮でした！

——他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

畑田 主体的に活動している団体がたくさんあることを知りました。また、課題を抱えながらも、解決策を探して工夫している姿に共感を持ちました！

——Filへの参加を通じて、新たにチャレンジしたいことは増えましたか？

中村 Filを通して自分たちだけで解決することができなかった課題へのアドバイスや新しい考え方を頂きました。頂いたアドバイスを参考に、これからも課題を解決していきます！

## 意見を聞くことで考えや価値観が大きく変わることがある

——Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

大羽 自分だけで解決しようとするのではなく、他の人の意見を聞いて学びあうことで、自分の考えや価値観が大きく変わることがあり、とても刺激的でした。自分では思いつかないような考えを知ることは、とても価値のあることだと感じています。



## Filのような活動は学生の成長につながる

——こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナにアドバイスやコメントをどうぞ！

大羽 僕たち学生が社会人の方から意見や感想を頂ける機会というのは少ないと感じていたので、とても参考になりました。もっともっと、Filのような素晴らしい交流の場を増やしてほしいなと思いました！

中村 Filのような活動は僕たち学生の成長につながります。他大学の方との交流によって互いに良いシナジー効果をもたらすことができると思うので、

よりFilのような場を増やして頂きたいです！



——活動支援金の使い道は？

大羽 今回Filに参加しなかったコモンズサポーターとも喜びを分かち合うために食事会を計画しようと考えています！

——自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

大羽 東京農業大学 大根プロジェクトです。メディアにも取り上げられたことがあると聞いた時はすごいと思いましたし、同時にうらやましいとも思いました(笑) 発表や映像からプロジェクトに対する一人一人の責任感を強く感じました。

## 自分の考えを伝える力がついてきた

——最後に、団体活動が学生生活や研究活動で役立ったこと、広がりを感じたことがあれば教えてください。

畑田 インターンシップを通して社会人の方と接する機会が増えました。また、グループディスカッションを経験していく中で自分の考えを伝える力がついてきたような気がします。私が所属している部活動でも、社会人の方と交流するときに自分の意見を簡潔にまとめ、相手にわかりやすく伝えようとする時にとても役立っています。





# 長浜バイオ大学 長浜魅力づくりプロジェクト

## 日々成長するために さまざまなことに挑戦しよう

——まずはFil2018を終えて  
率直な感想をどうぞ！

**山本** 他団体の発表が十人十色で魅力的ですごく楽しかったです。私たちのやってきたことを振り返ると同時に、初めて私たちのことを知って頂いた方からのフィードバックが大変うれしく、勉強になりました。多くの気づきを得られてまた少し成長できたかな？と手ごたえを感じています。それだけでも嬉しいのに、応援したい団体2位に選んでいただいてとても光栄に思っています！

**城本** “Fil2018”応援したい団体”2位に選んでいただき、とても嬉しいです。

## 共に成長を望める場に自分を 置けるかもしれないと思った

——こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**山本** 私たちの成長を発表する場だと聞いて、どれだけ上手くいったかという結果報告でなく、共に成長を望める場に自分を置けるかもしれないと思ったからです。腕試しのような感覚に近いですね。実際に活動してみて、日に当たる部分だけではなく、それ以外の失敗も経験という意味で、私たち自身が私たちを肯定的に捉えることができるのではないかという思いもありました。また、それを、悩んだり苦しんだりしている方にも知ってほしいと思ったからです。

**城本** 僕は、僕を成長させてくれた長浜バイオ大学と、一緒にイベントを作ってきた長浜魅力づくりプロジェクトのメンバー全員に、感謝の気持ちを伝えたくったからです。



## 目標を達成するためにできることは何かを考え、行動する重要性に気づいた

——Filの発表準備をする中で自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**城本** 一人一人が目標を達成するために自分ができることは何かを常に考えて計画的に行動する重要性和、団体において大切な場面では合意形成が必要不可欠有だという点に気づきました。

**山本** 失敗だらけだったという気づきが一番です。イベントや活動はそれなりにまっまっていたかもしれませんが、上辺だけの成功ではなく本質を捉えきれなかったのかなという思いがどんどん出てきました。それをもっと早い段階でチームに還元できればよかった、もっと他にやり方があったのではないかと考え、自分の未熟さを思い知り、向き合う時間になりました。それと同時に、Filへの期待もかなり膨らんでいったように思います。

## 受動的であってはチームワークは成り立たない

——Fil当日、みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**城本** 合意形成するためには、コミュニケーションが必要不可欠であり、その話し合いに主体性を持って参加することがチームワークへとつながることを伝えたいと思いました。

**山本** 一番は「合意形成によるチームづくり」です。そのためにも「コミュニケーションが最も重要である」、「メンバーが主体性を持って行動する」ということを特に伝えたかったです。

やはりチームで何かするときには、コミュニケーションをとらないことには何も始まらないからです。初歩的なことかもしれませんが、最も重要だと考えています。また、受動的であってはチームワークが成り立ちません。そのためにも主体性を持ってチーム構成員が自分の意志で考え、行動することが重要だと考えます。その中で軸となる一つのことを合意によって決定し、尊重できればいいと伝えられたかったです。

——それは伝わったと思いますか？

**山本** 伝わったかな、と思います、いや、伝わってほしい！（笑）  
頂いたメッセージカードには、私たちが伝えたかった「多数決ではなく合意による意思決定」で決めたデザイン案だけではなく、様々な場面でも使えそうなので参考にしたい、という意見や、合意によって軸を作ることで何かあったときに原点に戻れるので良いと思った、などの意見を頂きました。今回私たちが伝えたかった「合意形成によるチームづくり」の大切さ

を感じて頂けたからだと思っています。

**城本** それに、他大学や教職員の方々も笑顔で聞いてくれたので伝わったと思います。



——参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**山本** 一言で言うなら感無量、でした。長浜魅力づくりプロジェクトのイベントそのものへの意見から、そこに至るまでのプロセスを含めて感想を頂いたのは今回が初めてなので、重みがありました。中でも、「多数決など楽な方に流れず妥協しないで合意を求めていることがすばらしい」といった意見を読んだときに、私たちが言いたかったことがしっかり伝わったのかな、と思い涙が出ました。また、「地元への愛があふれていた」という意見も嬉しかったです。私は滋賀ではなく京都出身で、大学で初めて滋賀に来たのですが、滋賀県ファンが増えてくれればうれしく思います！

**城本** 「地域に密着した活動であり、みなさんの長浜愛に魅力を感じた」というメッセージカードや、「コンセプトをチーム内で統一すると意識や気持ちまで統一されている点に魅力を感じました」というメッセージカードを頂きました。

## 活動は多種多様でも、本質としては同じものではないか

——Filに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

**山本** 他大学の様々な活動を知ることができたことです。活動で悩んだことや見つかった課題などは多種多様でしたが、どれも本質としては同じものではないかと感じたので勉強になりました。その中でそれぞれに解決策を見つけて工夫していることも励みになりました。私自身も、Filを通して確かな手ごたえを感じました。たった1日の会でしたが、その中で得られた学びは計り知れないと思います。

**城本** 僕自身の長所を発見できたことと、大学生活で様々なことに挑戦している方々に出会えたことで、僕自身も成長するために様々なことに挑戦しようと感じることができたのが良かったです。

——自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**山本** 中部大学のコンズサポーターです。チームとして何ができていて、何が不足しているのかを分析し、等身大の自分をこのFilで見せていたように感じたからです。課題をどのように解決するのか、どう向き合うのかといった真摯な姿勢がすごい！と感じました。

**城本** 僕も中部大学コンズサポーターです。主体的な学びの場を提供すること、居心地の良さを意識されていることがプレゼンテーションで伝わってきてよかったです。

## 自分らしさを表現する重要性を伝えることができた

——最後に、団体活動が学生生活や研究活動で役立ったこと、広がりを感じたことがあれば教えてください

**城本** サッカーの試合では自分から主体的に声を出せるようになりましたし、塾講師として生徒の目標を意識した双方向のコミュニケーションをとれるようにもなりました。後輩に就活の相談をされた時は、僕がFil2018の発表をするときに感じた、自分らしさを表現する重要性を伝えることができたように思います。

**山本** 滋賀の魅力を私自身がより深く知ったことで、他の団体へのつながりを実感できました。また、色々な方とお話しする際に多話題の一つとしてや、研究テーマとして広がりを感じました。何より合意形成の大切さを実感できたことが一番役に立ったように思います。今後の様々な活動に活かしていきたいと思っています。





Project Tokyo University of Agriculture  
radish project  
Fil2018  
応援したい団体  
第3位

# 東京農業大学 大根プロジェクト

自分の中で終わりにするのではなく  
他者と考えを共有することでより深く考えることができる

——まずはFil2018を終えて  
率直な感想をどうぞ！

**高久** 大学生としてなかなかできない、他  
大学との交流は貴重な経験でした。

**畑木** こういう場で発表するのは初めて  
だったので、無事に終わることができてと  
てもほっとしています。

——こういった場があると知ってどう  
して発表しようと思ったのですか？

**高久** 自分たちが頑張ってきた活動を発  
信したい、大学をPRしたいという想いが  
ありました。

**畑木** 今後自分が社会に出るにあたって、  
人前で自分の意見や考え方を発表する  
のは避けて通れないと思っています。

なので、学生の時にそう言った経験を  
積みたと思います。

**浅野** 普段大学内でこじんまり活動してき  
たため、日本各地から同土が集まって切  
磋琢磨できる環境に感動しました。  
他の団体と私たちが同じところ、違うとこ  
ろを考え、話し合うことで、その日初めて  
会ったのに良い交友関係が築けました。

**私たちの想いを偽ってはいけ  
ない**

——Filの発表準備をする中で自身の活  
動について感じたこと、気づきなどは  
ありましたか？

**浅野** 活動を振り返ると、私たちが結構  
単純だったんだなと感じます。発表をす  
るためにストーリーを考えていく中で、

始めは社会で通用する～だとか、  
PDCAサイクルが…だとか、難しい言葉  
を使ってあらずじを立てていました。  
でも、私たちのストーリーを見た人に「こ  
んな綺麗すぎる言葉じゃ表せてないよ」  
と言われはっとしました。  
大根プロジェクトは、社会的に求められ  
る用語や言葉では言い表せないほど  
泥臭くて、まっすぐなメンバー全員の想い  
で成り立っています。私たちの想いを  
偽ってはいけないな、と思い、急遽スト  
ーリーを「私たちの言葉で」書き直しました。  
発表準備を進めていく上で、そうした私  
たちの活動の根源を見つけることができ、  
より一層活動に対する愛が深まりました。

**高久** やりたい！という意思で続けた活  
動は、自分自身の成長につながるという  
ことは改めて感じましたね。

## 新しい課題には失敗を恐れず トライする

——Fil当日、みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**高久** 新しい課題に直面した時は、失敗を恐れずにはまずトライするという。つまり、行動に移すということです。私たちの団体は、今年度新しい試みにいくつかトライしてきました。結果的には成功と失敗がありました。行動を起こさない限り前身はなく、失敗は次に活かす最大の材料となりました。

——それは伝わったと思いますか？

**高久** はい。熱意を込めて伝えました。



——参加者からももらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**浅野** 帰ったその日に全部読みました。みなさん、それぞれがプレゼンに「何を重視しているか」が違い、褒めてくださる点が一緒でも、人によって「何がどう良かったのか」が違いました。その違いによって個性が生まれているんだと感じました。何十人もの方々が、私たちの活動を認め、こうして評価頂けたのはとても光栄でした。

**高久** 大根プロジェクトのメンバー勧誘方法を自分たちも真似したい。という他大学の意見は素直に嬉しかったですね。

## 活動が交流の種となり、大きなつながりが作れた

——Filに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

**浅野** 互いに切磋琢磨しあえる仲間が増えたことです。今までは学内、またはプロジェクトメンバー内でお互いの努力を認め、伸ばしていこうとしていました。それが、こうして日本各地から同じ境遇の方が集まり、活動を発表していく中で互いに尊重しあい、高めあうことができました。私たちがやっていたことは、数ある大学の中の数ある活動の一つです。そんな小さな活動が、こうして学外の人たちとの交流の種となり、他大学の方との大きなつながりが作れたことは、Filだからこそのことだと思います。



——他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

**畑木** やっていることは違うのに、それぞれ抱えていた課題に共感できるものがあったことは驚きました。特に人員不足や宣伝活動は多くの団体が課題としていて、それに対する対処法も多種多様で、これからの自分の活動の参考になりました。

**高久** メンバーを集める課題は他大学も同じで、勧誘や告知は重要だということを感じました。



## 課題を対処する新たな見方が 得られた

——Filでは参加者全員がともに学び・学びあうことを大切にしています。グループでお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**畑木** 自分の中だけで考えて終わりにするのではなく、他者との間でその考えを共有することでより深く考えることができたと感じました。共感された時はもちろん、反対意見や異なる考えが出てきても、話し合うことで深く考えられたと思います。

**高久** 各大学が様々な経験を通して得た経験値や価値観を共有し、課題を対処する新たな見方が得られました。

——こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナにアドバイスやコメントをどうぞ！

**高久** 若者は日本の未来です！応援よろしくをお願いします！

**畑木** 具体的な指導や資金援助がなくても、発表する場を提供するだけでも十分だと思います。発表という形をとることで、

自分たちの活動を振り返る良い機会になりますし、多くの人に自分たちの活動を知ってもらえると思います。

——自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**高久** 長浜バイオ大学の長浜魅力づくりプロジェクトです。地域活性化を大学の団体が担い、名産品とゲームを組み合わせる形で地域に貢献する活動は魅力的だと思います。

——最後に、団体活動が学生生活や研究活動で役立ったこと、広がりを感じたことがあれば教えてください

**浅野** 主に就職活動で役立ちました。自己紹介をする際に、大学名と名前にプラスアルファで団体活動の説明を軽くすると、就活生も人事の方も覚えてくださり、第一印象のインパクトで話が進むことが幾度となくありました。

また、そうして私自らが口にした、私=大根プロジェクトとすることで、私を表現するものとして愛着がわき、プロジェクトともいっしょに自分自信がついてきます。団体活動をするうえで身についた主体性も、グループディスカッションで積極的に発信したり話を進めるなど大いに発揮できました。大根プロジェクトに参加していたことで、不安だった就活のスタートも楽しみながら始められました。



# 文化学園大学 和装企画集団・紬

Bunka gakuen  
University  
tsumugi



## 私たちの中にあつた意外な積極性を感じることができた

——まずはFil2018を終えて率直な感想をどうぞ！

**尾崎** 今までは、着物に関連した企画でのみ活動をしていたので、それ以外のものに参加したことはとても良い経験になりました。また、他の団体のプレゼンテーションを拝見し、私たちの活動を見直すきっかけになりました！メッセージカードに鋭い指摘や貴重なアイデアを書いてくれたみなさん、ありがとうございました！

——こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**岸** 大学の先生から教えてもらって興味を持ちました。参加を決めた理由は、「もっと多くの同世代の若者に和装の魅力を知ってほしい」という、私たちの活動目的に適した場だと思ったからです！また、他の学生団体がどんな活動をしているか知りたいとも思いました。

### コアメンバーが一丸となって行動できた

——Filの発表準備をする中で自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**堀内** 今回の参加にあたり、私たちの中にあつた意外な積極性を感じることができました。メンバーは総勢15名程度なのですが、コアメンバーが一丸となって行動できたことがよかったです。

ただし、メンバー同士のコミュニケーション不足は発表の準備中にも感じました。

——Fil当日、みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**堀内** 「もっと多くの同世代の若者に和装の魅力を知ってほしい」ということです。

——それは伝わったと思いますか？

**岸** 魅力は伝わったと思います。多くの方が着物姿の私たちに声をかけてくださったことや、着物に関して色々質問してもらえたことで実感できました。

### 自分たちだけでは気づけなかったこともあった

——参加者からもらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？



岸 活動のアドバイスが多くありました。留学生をターゲットにしたらどうかなど、自分たちでは気づけなかったことも多くあったので、参考になりました！

——Filに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

岸 他大学の学生さんと交流できたことです！

## 課題の発見とそれを乗り越えるための仕組みのサイクルを見つけることが重要

——他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

岸 「課題の発見」と、「課題を乗り越えるための取り組み」のサイクルを作ることの重要性を感じました。

——Filへの参加を通じて、新たにチャレンジしたいことは増えましたか？

岸 着物の「高級なイメージ」をいい意味で裏切る、気軽な存在にしていきたいです。



——自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

岸 東京農業大学の大根プロジェクトです。学生主体が確立されていて、問題の発見から改善・行動・反省のサイクルがしっかりとしているところなど、見習いたいと思うところがたくさんありました。

## 学生生活だけではなかなかできない体験ができた

——最後に、団体活動が学生生活や研究活動で役立ったこと、広がりを感じたことがあれば教えてください

岸 私たちだけで着物のイベントなどの企画・運営を実際に行なったことで、学生生活ではなかなかできない貴重な体験ができたと思います。学生生活の中でも制作活動にこの経験を活かしたいと思いました。また、グループワークの難しさを痛感したこともあり、人と何かを作り上げる時はこの団体の活動を反省し、役立てたいと思います。



## 実際に体験することで、どんな支援が必要なのかの理解が深まると思う

——こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナにアドバイスやコメントをどうぞ！

堀内 「どう支援するか」は、実際にオトナの人が学生と一緒に体験することで、どのような支援が必要なのかを体験を通して知ることで理解が深まり、対等に向き合えるのではないのかと思います。

——活動支援金の使い道は？

尾崎 学生着物デザインコンテストで募集したデザイン画の優秀作品を着物に仕立てるための布代・プリント・縫製に使う予定です。



# 東京都市大学

## 夢キャンコミュニケーター



### 自分の考えの幅が以前より圧倒的に広がった

——まずはFil2018を終えて率直な感想をどうぞ！

**本間** 各出場団体の発表を聞いて、活動内容は全く違うのに、抱えている課題・問題は似たり寄ったりだったので、その点々が、活動の異なる団体の発表、意見交換を行うFilの面白い点だと思いました。

——こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**本間** 私たち夢キャンコミュニケーターは、二子玉川夢キャンパスを拠点に活動しており、ここで開催されるイベントということでFilのことを知りました。

夢キャンコミュニケーターは様々な悩みを抱えていて、団体としての軸がわからないまま運営されていたので、そこを整理したい、というところから発表するに至りました。

### 夢キャンコミュニケーターの理念や目的を見つめなおすことができた

——Filの発表準備をする中で自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**本間** 実は、夢キャンコミュニケーターとはどういったものなのか私自身深く理解していませんでした。現在私は団体の代表をやっていますが、まだ活動を初めて

から1年も経っておらず、細かい引継ぎがないまま代表をしているのが現状でした。今回、発表に際して過去の様々な資料を見て、夢キャンコミュニケーター設立の経緯や理念、目的、方針などを見つめなおすことができました。



——Fill当日、みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**本間** 私が最も伝えたかったことは、夢キャンコミュニケーターの理念と目的です。多分ですが、発表で最も時間を割いていたかと思えます。なぜこれを最も伝えたかったかという、ただ単に「こういったことをしています」、「こういう問題が発生しました」などと伝えず、まずは根本にあること。それを伝えた上で、活動内容を話したかったからです。

——それは伝わったと思いますか？

**本間** 懇親会で話した人からは伝わったという感想を頂いたので、伝わっていると思います。

## 自分やメンバーだけでは気づけないことに気づけた

——参加者からももらったメッセージカードの内容はどんなものでしたか？

**本間** 発表の形式や、今後の活動についてのアドバイスなど様々なメッセージを頂きました。Fillに参加している人は、それぞれ悩みがあり、それをそれぞれが思うやり方で克服してきただけあって、自分一人だけ、メンバーだけでは気づけない私たちの団体のいいところなどが書いてあるメッセージカードもあり、とても参考になりました。その他にも、色々な内容があり、悩みの筋が同じなだけあって、みんな自分のことのように考えてくださっていて、感謝しています！



——Fillに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

**本間** 実際に悩みを抱えてきた人たちと直に話をできる機会があったと思いました。

——他大学の発表を聞いて感じたことはどのようなことですか？

**本間** やはりどんな活動をしていても、抱える悩みは同じだったり、似たり寄ったりなものだと思いました。



——Fillへの参加を通じて、新たにチャレンジしたいことは増えましたか？

**本間** Fillに参加している人たちは多種多様な活動をしており、全く違うジャンルの人たちで何かイベントをしてみたいと思いました。それぞれ様々な考えを持っており、それを持ち寄れば面白いものができるのでは？と思いました！

## 人と会い、話をし、意見を交わすことで価値が生まれる

——Fillでは参加者全員がともに学び、学びあうことを大切にしています。グループ内でお感じになった「学びあいの価値」があれば教えてください

**本間** Fillでは、良い学びあいの価値があったと思います。自分の大学内だけだったり、自分の団体の中だけだと考えが凝り固まってしまうので、こういった多種多様な人と会い、話をし、意見を交わすことで学びあいの価値が生まれると思います。

## 教職員の方々は、私たち学生の現在・未来を見てくれている

——こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナにアドバイスやコメントをどうぞ！

**本間** 私たちの団体を支援してくださっている職員の方は、学生の現在・未来を見てくださっています。大学は4年間しかないのに、講義を受けて研究をして、卒業・・・ということだけでいいのか。大学を卒業して社会で活躍していくのに、それしかやらなくていいのか、という教職員の方々の想いがある、夢キャンコミュニケーター設立の礎を築いてくれました。私たちの行なっているような活動は学生からしたらメリットがないと思われがちで、あまり参加する人がいないという話をよく聞きます。ですが、社会に出ることへの不安は誰もが抱えていると思います。なので、教職員やオトナの方々は、その不安をよく聞いて、こういった活動によって解消されるような場を作ることが良いと思います。

——活動支援金の使い道は？

**本間** 夢キャンコミュニケーターのメンバーのためになることに使いたいと考えています！

——自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**本間** 文化学園大学の和装企画集団・紬です。紬が行なっているイベントは、少し私たちの活動と似ていて、和服への思いや情熱をすごく感じました。

——最後に、団体活動が学生生活や研究活動で役立ったこと、広がりを感じたことがあれば教えてください

**本間** まだ本格的に夢キャンコミュニケーターが始動しきれていないので、感じる場面がないのですが・・・ただ、色々な人と会う機会が多くなったことで、自分の考えの幅が以前より圧倒的に広がった気がしています。





Hosei  
University  
GBC

法政大学 GBC  
(Glass Box Office Hour Center)

## 後輩たちに、次の世代のためにやっていくべきことを 知ってもらいたい

——まずはFil2018を終えて  
率直な感想をどうぞ！

**下條** グループで発表の準備をするということが初めてだったのですごく大変でした。でも、準備段階から先輩や先生方にアドバイスを頂き、本番では他の団体の活動の仕方や発表の仕方、アドバイスからたくさんのことを学ぶことができたので参加して良かったと思っています。

**大田原** 今回参加させて頂けたことはとても良い経験になったと思っています。といいますのも、GBCがどういう位置づけで何を目的として活動しているのかということを改めて知ることができたからです。また、これを知った上で今までの自分のSAとして行動を見つめなおすことができました。今回の経験を活かして、今後どのような活動をしていくべきか考えていきたいと思っています。

**笹沢** 所属する団体を紹介するにあたって、私たちの目的や、これからどういう目標をもって活動していけばいいか見直すいい機会になりました。また、他の団体の発表を見て私たちの活動に活かす

ような実にも多くのものを得ることができたと思います。

### 私たちが、私たちの団体を改めて知るべきだと思った

——こういった場があると知ってどうして発表しようと思ったのですか？

**羽田** 発表を通して、私たち自身が私たちの団体を改めてもっとよく知るべきだと思ったからです。毎年顧問の先生や、体制が変わってしまう団体なので…特にこれからGBCを担っていく2年生、1年生にはGBCやSAの役割を正しく認識してもらいたいなと思っていました。特にここ3年ほどはGBCにとっても過渡期であり、私自身1年生の時には新たな体制に困惑する先輩たちの下で自分が何をすべきなのかもよくわからず活動を続けていました。

体制の変化に伴って雰囲気はよくなったり、人が集まるようになったりと良い方向の変化もありましたが、問題もまた多く残っていました。

GBCの仕事のやり方を全員が最初のうちに教えてもらえる制度ではなくなった

ことで、SAの仕事のやり方や質にばらつきが出てしまっているのです。

これらは次に新しく入ってくるSAの育成時の課題となりえます。そのためにも、2年生、1年生には今回の発表を通してGBCの昔と今、その変化と、次の世代のためにやっていくべきことを知ってもらいたいと思っていました。

**下條** 私たちの団体は他大学と交流することがないため、今まで他の団体がどんな方針でどのように企画を実行しているかわかりませんでした。

そこで、Fil2018に参加することで何か新しい発見や刺激があるのではないかと考えたからです。また、グループで発表準備を行っていくことでチームワークを学べたり、コミュニケーション力が向上するのではないかと思います。



## 自分たちが活動する上で一番大切なことは何かを再確認できた

——Filの発表準備をする中で自身の活動について感じたこと、気づきなどはありましたか？

**羽田** 団体内での仕事の自由度が上がっていったのに伴って、責任も負っていたなと思いました。

一人一人がしなければいけないこと、参加しなければいけないミーティングが減った分、後輩たちは仕事を教えてもらう機会や覚える時間を失っていました。その機会を勤務時などに増やし、限られた時間で大切なことを教えていく努力が私たちには必要だったと思います。

**下條** パワーポイントをどういう方針で作成していくかを決めている時に、伝えたいことがメインの話になるように作成していきました。必ず伝えたいことを話すためにはどういったことを最初に話せばいいのだろう、伝えたいのだからと考えるうちに、私たちが活動するうえで一番大切なことが何なのかを再確認することができました。



## 必ずしも全員が同じ方向に成長していく必要はない

——Fil当日、みなさんが一番伝えたかったことはどんなことでしたか？

**羽田** 必ずしも全員が同じ方向に成長していく必要はない、それぞれの個性を尊重して活かしていけばいい、ということです。私たちの団体は、全員がプレゼンテーションのプロになるうとしくなくてもいいし、全員がリーダーにならなきゃいけないわけでもないんです。たとえ話すのが苦手でも、プログラミングが得意ならそれを活かせるシーンがあるので。そうやってそれぞれ得意なことえを活かした活動をしてもらうには、私たちがお互いにお互いの得手不得手を把握しておく必要があるし、なにより個性を尊重する、多様性を認める風土が必須だと思っています。そういう風にみんな一緒に仕事をしていこうとしているのだと伝えたいと思い、当日に臨みました。

——それは伝わったと思いますか？

**笹沢** 他の団体の活動を聴いていると、似たような課題を抱えていて、解決するために四苦八苦している団体も多くいらつやだったので…多分伝わっていたと思います。

——Filに参加して一番良かった！と思うところを教えてください

**羽田** 私たちと似たような団体である、中部大学の発表が聞けたことです。似たような組織だからこそ似たような悩みを持っていて、一つ一つのことに共感しながら発表を聞いていました。特に、イベントを開催しても参加者が来てくれない話…最近私たちにも同じようなことが起きたばかりだったので、他人事とは思えませんでした。同じような問題が発生した時や、今後の体制変更があったときはぜひ参考にさせて頂きたいと思っています。



——こういった活動を支援したいと思っている教職員やオトナにアドバイスをコメントをどうぞ！

**羽田** できるだけ風通しの良い環境を作ってあげてほしいなと思います。私たちの団体でいえば、学年ごとの色はそれぞれ違うのに、団体は中心になる学年の色に染まりがちです。そんな中でも、下級生の子にだって気軽に意見できる雰囲気や、力を発揮する場面、新しいことを始めるチャンスが用意されてほしいと思うのです。

——自分の団体以外で一番「すごい！」と感じた団体は？

**羽田** 文化学園大学の和装企画集団・紬です。一つ一つのイベントの規模が大きい！しかも、企業と提携していたりして、社会人のかなり年の離れた方を相手に話し合わなければいけないなど、とても大変そうなのに、少人数ですごく頑張っている。そういった点で、本当にすごいなと思いました。

## 1人で仕事をするのではなく、周りの人に協力してもらう

——最後に、団体活動が学生生活や

研究活動で役立ったこと、広がりを感じたことがあれば教えてください

**大田原** 私は地元で地域の小学生向けサークルのスタッフボランティアをしているのですが、そこでは「チームで働く」ということが役立っています。スタッフである私たちには、子どもたちを預かっているという責任があるので、ミスは極力避けねばなりません。わからないことは年長者に聞いたり、1人で仕事するのではなく、周りの人に協力を仰いだりということ判断できるようになりました。

**笹沢** 教授と仲良くなりましたね。暇な時間には授業とは関係のない他愛ない話をするようになりました。それ以外にも、授業に関わる知識や、研究室でどんなことをしているかなど様々な話を聞かせてもらいました。

**下條** GBC内で行なっているビジネスモデル形式のやりとりと、企画報告書の作成に役立っています。GBCに入って書き方を学んでから、アルバイト先の社員さんへのメールや、サークル内での企画書の作成などを抵抗なく行えるようになりました。これからサークルでリーダーや幹部になった時に、その経験が活かせると思っています。

**羽田** 私は3年生なので、ちょうど今就活をしています。GBCの話は、面接でよく使っています。企業の方の仕事に対する姿勢や、会社でチームの一員として仕事をしていく時のやり方などを聞きながら、私がGBCで仕事をしてきた時のことを見つめなおしています。私がどういったことを大切にしながら仕事をしてきたのか、どういう環境を求めているのか、そして、どういう会社とマッチしているのか。そういったことを具体的に考えていけているので、とても助かっています。





## 中部大学 コモンズサポーター コモンズセンター事務室 梅原 弥生氏

### 自分たちの活動が 誰かに影響を与えられるということを知ってほしい

—Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**梅原** 3年前に教職員だけで参加させてもらったのですが、今回は学生たちが発表を目指すことになったので、感慨深いものがありました。

—その上で、学生たちと参加してみようと思われた理由は？

**梅原** 私1人で勉強のために参加することもできましたが、学生たちが出場したいと言ったため挑戦することにしました。参加するからには、自分たちの学びや成長について素直に伝えてほしいと思いました。また、他団体の活動の様子、悩みや工夫を知り、多くのことを吸収してくれたいと思いました。

—Fil全体を通してお感じになったことは？

**梅原** どの団体の学生たちも本当に頑張っているな、と…。組織の制約がある中でも、より良くなる方法を考えて活動しているところが素晴らしいと感じます。

—普段学生を支援されるお立場としてヒントになることはありましたか？

**梅原** 学生たちはみんな、色々な立場の人のことを理解していることがわかりました。そのせいで遠慮してしまう一面もあるのではないかと。

もっと自由なアイデアのまま活動してもらえるように、頭を柔らかくするのは教職員側かもしれないということを感じました。

—学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお感じになったことはありますか？

**梅原** 私の経験がまだまだ足りないということを感じました。固定概念にとらわれて、学生のアイデアをつぶしてしまっていないかということも考えます。彼らと一緒にこれからたくさん学び、経験していきたいです。

—発表準備をしている学生たちを見ていて感じたことはありますか？

**梅原** 普段の活動でも感じることなのですが、「出場しない」という選択肢がある中できっかけはどうあれ、チャレンジすることを選択するというのはなかなかできることではないと思います。

忙しい中準備して、途中意見の衝突がありながらも一つのものを作り上げられた

という経験は、彼ら自身の糧になったのではないかと思います。

—これからご自身が新たにチャレンジしたいと思っていることはありますか？

**梅原** 他大学の団体との交流や、イベントの共催をしてみたいと思っています。Filをきっかけに同じ大学生が工夫をして様々な企画を動かしているということに刺激を受けたようで、学生たちがやる気になっています。

—学生たちへのアドバイス、メッセージがあればお願い致します

**梅原** チャレンジしているみなさんの発表を聞いてとても刺激になり、私も負けずに頑張りなくてはと、元気・やる気が出てきました。自分たちの活動が、誰かに影響を与えられるということを知ってほしいと思います。





## 長浜バイオ大学 長浜魅力づくりプロジェクト バイオサイエンス学部教授 松島 三児氏

### 学生たち自身が何を問題と感じ、どう解決していくか。 そのプロセスをサポートしたい

— Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**松島** 説明を聞くまでは、社会人基礎力育成の成果を競うプレゼン大会かなと思いき、あまり関心を持っていませんでした。が、失敗も含めて情報を共有しあうことで学生たちが学びあえる場というお話を伺い、良い取り組みかもしれないと思いました。

— その上で、学生たちと参加してみようと思われた理由は？

**松島** 実は参加すると決めたのは学生自身でした。私自身はプロジェクトの指導をしていたので、学生の熱意に引きずられる形で参加したのです。

— Fil全体を通してお感じになったことは？

**松島** 学生たちの発表を聞いて評価するというプロセスが、分かち合い、学びあいのプログラムとなっていて大変によく練られた素晴らしい取り組みだと感じました。発表する学生たちだけでなく、教職員も分かち合い、学びあいの場に参加できるように設計されているのがいいですね。

— 普段学生を支援されるお立場としてヒントになることはありましたか？

**松島** 特にPBLのような授業では、学生たちとの関わり方が大変難しいと感じます。もちろん放置はいけません、指導しすぎるのもダメです。学生たち自身が何を問題と感じ、それをどう解決していくか。そのプロセスを自分で気づき、話し合い、行動していけるようにサポートできればいいのですが、なかなか難しい。今回、他大学の事例から得られた気づきはもちろんありましたし、Filの運営自体から学べたこともあります。



— 学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお感じになったことはありますか？

**松島** 先に述べたこととも関連しますが、

私たち教職員の役割は「場づくり」と感じます。学生たちが主体的に気づき、活動していけるように、支援の要素が織り込まれた形で場を作れるかが大事になってくると思います。

— 発表準備をしている学生たちを見て、感じたことはありますか？

**松島** この短期間でよく成長したなと感心しています。「自己の探求」で学んだ「コンセンサス」を得るということを意識してプロジェクトに臨んでいたのも、それも大きかったと思います。

— 学生たちへのアドバイス、メッセージがあればお願い致します

**松島** 質の高い解に到達しようとするれば、自分たちがやろうとしていることをぎりぎりまで掘り下げて考え、議論し、実行していくことが必要となります。ひとつ解が見つかったところで安易に妥協せず、より質の高い解を求めていく姿勢をぜひ持ち続けてください。その姿勢が、自分自身をより大きく成長させることにつながるはずです。



## 東京農業大学 大根プロジェクト 学生教務課 課長 寺田 守一氏

### 教職員は学生がやりたいことをどのようにしたら実現できるのかを一緒に考えて考えることが大切

——Fillというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**寺田** 学生たちの良い活動を学外に発表できる絶好の機会であり、発表するにあたっての勉強の場でもおと思いました。

——Fill全体を通してお感じになったことは？

**寺田** 参加されている学生の目が生き生きとしていて、活気あふれていましたね。この場の雰囲気をお本学の学生全員に見せてあげたかったです。

——普段学生を支援されるお立場として何かヒントになることはありましたか？

**寺田** 大学での学びはカリキュラムという決められた枠の中だけではなく、自ら考えて行動し、学んでいくのだということを再認識しました。

——学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお感じになったことはありますか？

**寺田** 学生がやりたいことを、規則だから、前例がないからといって妨げるのではなく、教職員もどのようにしたら学生がやりたいことが実現できるのかを一緒に考えていくことが大切であると思います。また、学生に全て任せるとはせず、少しだけ支えてあげることも大切なことであるし、その後の学生との信頼関係も生まれてくると思いますね。

——これからご自身が新たにチャレンジしたいと思っていることはありますか？

**寺田** 今までにはなかった厚木キャンパスならではの、自らが考え、行動し、学んでいく農業実習を構築していきたいです。

——学生たちへのアドバイス、メッセージがあればお願い致します

**寺田** 学生が主体的に活動するうえで、壁にあたって悩まず、止まらず、失敗を恐れずに進んでほしいですね。その経験は社会人になってから必ず役に立つと思います。失敗を繰り返しながら解決策を見つけ出すことは社会人になれば当たり前のこと。ただ、今は学生なのだから、最後の切り札である教職員をうまく利用することも早道の一つです。

——Fillに今後期待されることなど、メッセージをお願い致します

**寺田** Fillは大学のカリキュラムにはない大変素晴らしい学びの場です。今後もぜひ継続して頂き、もっと多くの学生が参加できるようになればいいなと思いました。見学するだけでも刺激になるとお思います。





## 文化学園大学 和装企画集団・紬 和装文化研究所・博物館学研究室 助教 岡島 奈音氏

### 学生たちが主体的に動き出すまで背中を押すのが教職員の仕事

——Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**岡島** 学生が自らプレゼンテーションをするだけでなく、他大学の学生のプレゼンテーションを見ることで、自分たちの活動を相対化するいい機会になると考えました。

——その上で学生たちと参加してみようと思われた理由は？

**岡島** 結果の如何に関わらず、学生たちの1年間の活動を発展的に総括するいい機会だと思ったからです。また、同年代の参加者とのふれあいから学生たちが自然に学ぶことも多いだろうという期待を抱いて参加しました。プレゼンスキルはこなした数に比例するので、学生には人前に立つ機会を一度でも多く経験してほしいという気持ちもありました。



——Fil全体を通してお感じになったことは？

**岡島** 当日の内容は、良い意味で「学生のプレゼンだけ」だったと感じました。つまり、開会のあいさつも大げさではなく、会場もシンプルなしつらえで、大人の考える「よくできたプレゼン発表会」に学生の発表を当てはめていない印象を受けました。

また、良い評価を受けたグループの学生たちは発表以外にも質問したり、グループ内でも自分から話しかけたりと積極的にコミュニケーションをとろうとしており、アグレッシブかつフレンドリーな佇まいは一社会人として素晴らしいと感じました。

——普段学生を支援されるお立場として何かヒントになることはありましたか？

**岡島** 活動目標が明確な集団は、活動、反省、課題発見、またそれを踏まえて活動…というサイクルが自然にできていると感じました。学生たちが立ち止まってしまうのは、目標が見えづらくなっている時なのかもしれませんね。

——学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお感じになったことはありますか？

学生たちが主体的に動き出すまで、背中を押すのが教職員の仕事。走り出したら手を放す…そのタイミングの見極めが大事ですね。自分なりの距離感を常に模索しています。

——これからご自身が新たにチャレンジしたいと思っていることはありますか？

**岡島** 今構想を練っている作品があるので、その制作にチャレンジしようかと。長期的な展望としては、イタリア語を習いたいと思っています。春ですから、野望はでっかく！（笑）

——学生たちへのアドバイス、メッセージがあればお願い致します

**岡島** 今回のFilへの参加で得られたものがそれぞれにあったと思います。達成感、くやしき、目標、人脈…それらを一過性のものとせず、次につなげていきましょう。特に、気になった人には自分から連絡してみることに！  
Don't Be Shy!



## 東京都市大学 夢キャンコミュニケーター 企画・広報室部長 浦田 充起氏

### “やらされる”感のある組織ではなく、 “やりたい”思いから活動が生まれるようにすること

——Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**浦田** Filってなんだろう？ということから、学生が主体になって活動すること、学生を成長させ元気にさせていくことなど、色々とお話を伺いました。はじめはよく理解できませんでしたが、現在私たちが活動している夢キャンパスの取り組む姿勢と狙いが同じだなあと感じ、この施設を提供致しました。

——その上で、学生たちと参加してみようと思われた理由は？

**浦田** 他大学の学生同士が交流することで、彼らの持つ可能性をより引き出せるのではないかと感じ参加をさせました。

——Fil全体を通してお感じになったことは？

**浦田** 学生たちは、何かをやりたいと思っても個人レベルではなかなか実現できないといった自己実現への思いや、なんとか大学に愛着を持ってもらう取り組みが

できないか、もっと色々なことができるはずといった愛校心の発露まで、様々な思いを抱えていることがわかりました。

——学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお感じになったことはありますか？

**浦田** 学生たちは、大学の支援の中で自由な発想で考え、実現できるのがあるがたいですね。従来型の“やらされる”感のある組織ではなく、各自の自発的な“これがやりたい”という思いの中から自然と活動が生まれるようにするのが現在の課題です。我々と大学側の思い描く姿は違うかもしれませんが、それぞれに何かを変えたいという思いもある。我々のやりたいことはしっかりと主張し、大学側の思いもよく聞きながら、色々なことに挑戦していきたいですね。かつての学生の気風が今も芽吹いているのを、強く感じさせてくれました。

——発表準備をしている学生たちを見ていて感じたことはありますか？

**浦田** 「アクション・ラーニング」の1つにも位置付けられるであろう今回の体験が、学生たちにとっていい機会になったと

思います。

——学生たちへのアドバイス、メッセージがあればお願い致します

**浦田** 夢に向かって情熱をもって活動できる仲間や、学生時代に何か大きなことに挑戦してみたいと思っていたり、夢を叶えるためにどうすればいいのかと悩んでいる…そんな学生のみなさんを応援しています。

——今後Filに期待されることなど、メッセージをお願い致します

**浦田** 学生には、これから社会で求められるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、リーダーシップを学び、卒業後に様々な課題に挑み、成し遂げる力を身に付けてほしい。そのために、これからも社会で通用する知識とスキルを体得する学生を輩出していきたいので、今後もFilが中心的な役割を担うことを期待しています。

学生の“自主的力”が無限の行動力を伴って  
大学を変えていくことができる  
それを信じて行動すること



## 名古屋学院大学 常任理事 国際文化学部長・教授 木村 光伸氏

—Filというイベントがあることをお知りになり、どのように思われましたか？

**木村** 学生のみなさんが主体的に生きようとしている…そんなに自覚しているわけでもないかもしれませんが、そのことを大学間の情報交換と相互交流でつなぐ試みとして、大変興味を持ちました。

—Fil全体を通してお感じになったことは？

**木村** 学生のみなさんが自分たちの手で学習環境を楽しみながら変えていこうとする熱意が、そのままそれぞれの大学独自の活動になっている。それを他大学の学生たちが素直に感動していることを頼もしく思いました。本物の自立心の芽生えでしょうね。

—普段学生を支援されるお立場として何かヒントになることはありましたか？

**木村** 教員や職員が学生力を過少評価している現状を反省しました。それと同時に、教育という場面での押し付け、教育方針だからとか、あるいはよかれと認めての行為だとか、学生活動をスポイルする可能性にも大いに反省させられました。

—学生が主体的に活動することや、それを教職員が支援することについて何かお感じになったことはありますか？

**木村** 学生支援は、ともすれば学生の活躍のステージを準備してあげることだと言いつつ、実際には学生活動の範囲を制限してしまう恐れがあります。また、昨今の学生のみなさんはよく言えば素直ですから、「先生や職員さんがおっしゃる範囲でやるのがベストだ」と、安易に妥協するところもありそうです。学生が大学の教職員に対して、少々の無理、無茶を言い、教職員が考え込む…というような場面を日常的に学内に作っていくことが大切かと感じました。

—これからご自身が教育で新たにチャレンジしたいと思っていることはありますか？

**木村** 現在所属している学部が2018年度で完成年度を迎えるので、再度初年次・入学前教育から見直して、学生力による学生の生きる場づくりや、上級年次学生の経験を活かしたキャリア形成現場としての学部教育・学生活動を模索したいと思っています。

—学生たちへのアドバイス、メッセージがあればお願い致します

**木村** 学生の自主的力が無限の行動力を伴って、大学を変えていくことができると信じて行動すること。

大学には経済的制約がありますが、それを考えるのは教職員の仕事ですから、行動を自主規制しないこと。学生というのは無茶を言うものです。その中から新しいことが生まれることを信じて行動すること。

—今後Filに期待されることなど、メッセージをお願い致します

**木村** 自主的力で大学を変える、新たなことを生み出す——それが大学を超えて供され、大きな声になる。その舞台として、Filがあり続けて頂ければ、この活動は必ず全国に広がると思います。ありがとうございました。

## 満足度について

	サンプル数	満足した	まあまあ満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	満足しなかった	無回答
全体	44	32	8	2	1	0	1
		72.8	0.19	0.05	0.02	0.0	0.0
学生	35	25	7	2	1	0	0
		71.4	20.0	5.7	2.9	0.0	0.0
社会人	9	7	1	0	0	0	1
		77.8	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1

(上段:人, 下段:%)

## 発表を聞いて、気づいたこと・感じた事(学生のみ)

- ・それぞれの団体に課題があり、トライ&エラーを繰り返しながらやっていっていると感じた。それが、社会人になってからの経験に役に立つのかなと思った。
- ・どの団体さんもさまざまな活動をしていて、その中でさまざまな課題にあい、それぞれの課題解決方法で解決していて、とても参考になりました。
- ・同じような点で悩んでいた、それを解決していたりと共感もでき、学びたいと思えることが多々あった。
- ・発表を聞いて、それぞれの団体が自分たちの活動に自信を持っていることが伝わってきた。課題があるのも、努力したからこそ分かることなんだ、ということに気付くことができた。
- ・組織としての悩みは、どの組織でも似ているものがあるなと共有できました。とても同じ大学生とは思えなかった。自分も負けていけない!
- ・日本の至る所で、こうした学生の想いがつまったプロジェクトが行われていることが非常に興味深いです。他の方の発表を聞き、また、私たちの発表をきいてもらって討論することで、より自分の団体へのモチベーション、他の団体への興味がわきました。

## グループシェアで気づいたこと・感じたこと(学生のみ)

- ・様々な立場・所属の人と話すことで視点を広げることが出来てよかった。
- ・考え方、見方が異なる人との意見交換は刺激になりました。自分が気付かなかった考え方、見方を知ることで自分の世界がより広がったと感じました。
- ・違う団体の意見を聴くことで、今まで考えなかったこと、例えば大学外への企画などもできるということを知ることができた。
- ・自分がおかれている環境であったり、状況によって考えていること、感じるものが様々であり、情報を共有することで自分の可能性が幅を広げることができたと感じた。
- ・良い所をしっかりと良いと伝えてもらえるのがとてもうれしかったです。私たちの活動を、私たちの意識していない所まで見つけてくれて、モチベーションの向上になりました。
- ・学生の目線だけでなく職員目線の意見も聞くことができて良かったです。

## 支援者として大切だと感じたこと(社会人のみ)

- ・こちらが思っているより学生たちは自分たちでよく考えているので、見守る姿勢が大切だと感じました。
- ・伝え方は大切だと感じました。さらに支援者として、忍耐の気持ちが全てかも知れない...
- ・自主性を尊重しながらも、ポイントとなるヒントを与えること。
- ・学生のアイデアをうまく形にしてあげられる、自分の知識や経験。今の自分には足りなさすぎました。

## 学生が自ら学ぶために支援者として難しいと感じること(社会人のみ)

- ・待つこと。
- ・多様な学生が居る中で、その多様性に、どこまで対応する力があるか、を感じています。
- ・コミュニケーションなどがグループワーク等によって教育の現場でも図られる中、世代を超えるグループの共有は難しい。
- ・取り組みの成否の評価。人間的な学びに関することはすぐに結果が出ないため。
- ・どこまでアドバイスをしてあげれば良いのか?正解をすぐに提示してあげるのも違うと思うので、その辺りの裁量が難しい。

## その他印象に残ったこと、気づいたこと

(学生)

- ・こういった形でのディベートの経験は少ないので、とてもよい経験になりました。
- ・今日参加したことで、自分自身も発表したい。と思いました。自分には何をすることができるのがとても刺激をもらいました。頑張ることのすばらしさを改めて感じました。
- ・他大学と交流することはとても大事なことであると感じました。様々な取り組みを行い、そこででる課題は自分達をリンクさせることができるものもあると感じました。
- ・発表の準備が大変でしたが、チームで頑張ったり、発表練習を通じて大学の先生からたくさんのアドバイスをいただけてたりして準備から発表までとてもいい経験になりました。
- ・同じ大学生の皆さんから良い刺激をもらいました。明日の活動から志を高く持って生活していきます。
- ・他の団体の発表を聞く機会に恵まれたこと、そして質疑応答、合間の休み時間の時に話しかけてくださったことをありがたく感じました。やはり、身内だけでは気づくことのできないこと、忘れてしまっていることを知ることができました。

(社会人)

- ・活発に活動している様子がわかり、本当に良かったです。改めて学生に多くの経験をさせてあげたいと思いました。
- ・うまくいったことだけでなく、うまくいかなかったことも共有しあうというのは大変良い試みですね。ぜひ継続して下さい。
- ・学生、なかなかやるなあ...。貴重な機会をありがとうございました。
- ・他大学の学生さんのプレゼンからはたいへん多くのことを学んだと思います。



株式会社ラーニングバリュー  
代表取締役 安田 仁秀

### 「学びあう場」が存在していた

今回のFilに参加し、学生の発表を聞き終えた中で真っ先に感じたことは、学生が主体的に学び、活動する度合いがとても高かったのでは、ということです。それを感じたのは私だけなのかとも思いましたが、当日参加していた教職員の方々や、弊社スタッフと会話した際にもそのような声が多かったような印象を受けました。

その反面、学生の活動に関わった教職員の方々からは、「教員としてどこまで指導したら良いかとても迷った」「どこまで学生任せで良いのかすごく考えさせられた」などなど、このような声も今年はよく聞こえてきました。

教職員は【主体的な学び】を学生に促す上で、ファシリテーター的役割としてとても重要な役割を担いながら、学生から学ぶ。まさしく「学びあう場」がそこには存在していたのだと実感致しました。

現在、学びの場においてアクティブラーニングやPBLなど様々な手法が唱えられています。その場が参加しているみんなにとって「学びあう場」として成立しているかどうかで、教えるのではなく自ら学ぶ。育てるのではなく自ら育つ。そして、教えながら自らも学ぶ。そういった【主体的な学び】が存在するのではと、学生の発表を通して私も学びました。

# 編集後記

はじめに、Filにご参加頂いた皆様にお礼を申し上げたいと思います。お忙しい中ご参加頂き、本当にありがとうございました。

今年は司会という立場で、例年とはまた違った意味で少し緊張しましたが、私自身もたくさん学ばせて頂きました。

「学び」にとってよりよい場づくりが出来るようにもっと精進したいと思いました。

また、皆様の発表や発表後の様子を観て、改めてアウトプットする事とフィードバックをもらう事の大切さを実感しました。今後も皆様の「学び」のお役に立てるように工夫を重ねていきたいと思っています。(安達)



改めまして、Fil2018にご参加・ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました。

Fil当日、また、当日までのやりとりを通して私がそれぞれの団体から感じたのは、チームが好き、この活動が好き、という気持ちともっとチームや活動を良くしていきたいという思いでした。

活動をする中で困難や成功を経験してきているからこそ、そこで得られる学びも大きいのだと改めて感じた1日でした。Filでは、「学生たちを応援したい」その気持ちをこれからも大切にしながら、私たちが学ぶことを止めずに行きたいと思っています。(田代)

Field of invaluable learning  
**Fil2018**



**発行人**  
安田 仁秀  
**編集**  
安達 雄一・田代 麻衣子

**発行**  
株式会社ラーニングバリュー  
**本社**  
東京都港区浜松町1-25-13浜松町NHビル4F  
**お問い合わせ**  
03-5776-5960

※無断転用・転載は禁止とさせていただきます

## 『Field of invaluable learning』で大切にしたいこと

- ・互いの成長を願う姿勢を大切にすること
- ・互いに感じた事・考えた事を出来るだけオープンに話すこと
- ・それぞれの「違い」を楽しむこと
- ・学生も社会人も<学び合う>こと